

はじめに

昨年の9月24日から25日にかけて本県を襲った台風20号は、またまたひどい爪あとを残しました。

一昨年の8月、本県にとって70年来といわれた台風9号の復旧途上にあつただけに、このたびの災害によって受けた県民の物心両面にわたる痛手は大きなものでありました。

「災害は忘れた頃に来る」と云われますが、本県にとって災害は忘れようとしても忘れることの出来ないものであります。

台風20号は、いわゆる風台風であつたため、暴風による水稻、果樹、そ菜等の農作物や個人住宅の被害もまた少なく、個人の生活、経済に与えた影響は大きなものでありました。罹災者の方々には心から御同情を申しあげる次第であります。

しかし、このたびの災害に際しましても、各方面の絶大な御協力によつて、県はもとより国、市町村、その他関係機関、諸団体および県民が一体となつてこれが復旧にあたることができ、着々その成果をあげておりますことは、私の喜びでもあり、また感謝に堪えないところであります。

本県にとって災害のない郷土建設の道は遠く、決して安易なものではありませんが、私共は過去の災害の体験を基礎に絶え間ない工夫と努力を積み重ねることの必要さをあらためて痛感するものであります。

このような観点からも、将来への参考として、このたびの災害の経緯の概要を記録にとどめようとするものであります。

昭和40年3月

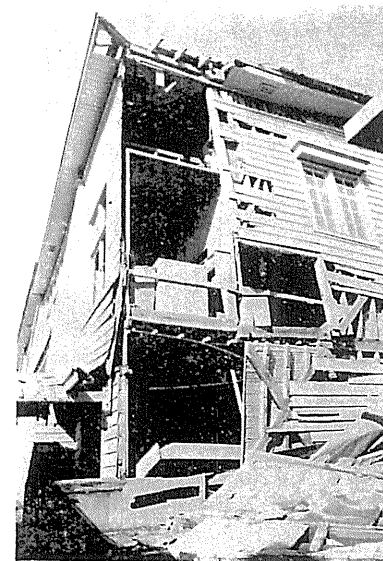
高知県知事 溝淵 増 巳



被災地を視察する溝淵知事（土佐市）



バタバタ倒れた電柱（南国市）



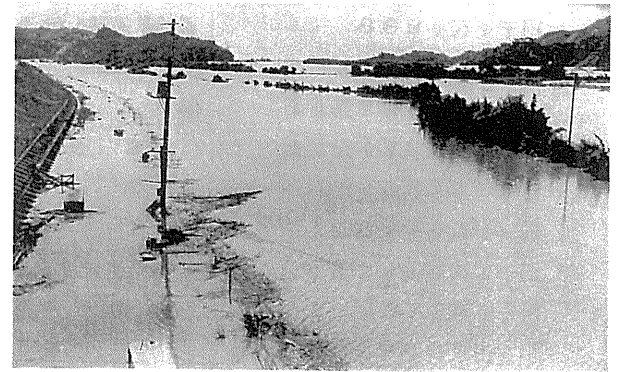
半壊した小学校（土佐市）



暴風に大木も根ついで倒れた (安芸市)



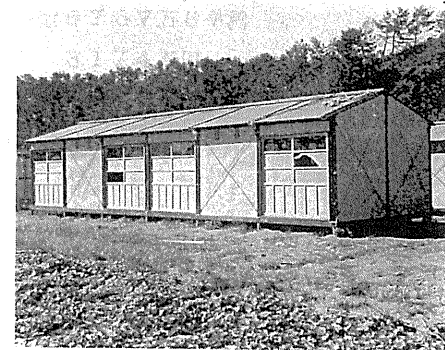
倒壊した民家 (土佐市)



泥海の下に沈んだ水田 (吾川郡春野村)



みかんの枝折れは県下いたるところで



災害救助法による応急住宅 (高知市)

被 害 総 括 表

死 者	3人	
負 傷 者	53人	
家 屋 被 害	37,680戸	45億3,095万円
土 木 被 害		11億8,571万7千円
農 林 被 害		42億9,564万9千円
耕 地 関 係		2億7,204万6千円
林 業		2億0,267万9千円
農 地 開 拓 関 係		8,694万4千円
農 作 物		33億0,909万4千円
水 稻		14億2,060万円
そ さ い		14億4,782万円
そ の 他		4億4,067万4千円
畜 産		1億0,174万4千円
農 業 共 同 利 用 施 設		3億2,314万2千円
水 産 被 害		7億9,072万4千円
商 工 業 被 害		5億8,840万円
教 育 施 設 被 害		3億5,598万2千円
鉄 軌 道 被 害		2,940万円
電 力 施 設 被 害		4858万5千円
通 信 施 設 被 害		3億0,767万8千円
そ の 他		3,174万円
被 害 総 額		121億6,482万5千円

第1章 概況

9月17日グアム島の南東方海域で発生した熱帯低気圧は北上しながら次第に発達し、19日には台風となり、21日には中心気圧895mbの大型となった。

台風20号は24日17時大隅半島南端に上陸後次第に速度を早めて25日1時宿毛市の北方に再上陸し、北東に進んで7時には舞鶴沖を通過した。

大隅半島に上陸した台風が、日向灘に出た24日21時頃から県西部では風雨が激しくなり、宿毛市北方に上陸した25日0時頃から県下の全域が風速30m/sをこえる暴風雨の圏内に曝された。高知空港では瞬間最大風速51.8mという記録的な暴風に見舞われている。

このたびの台風は、雨量は当初の予想に反して少なく、いわゆる風台風であり、長時間にわたる強風のため水稻・果樹・野菜・円芸等の農作物及び住宅・工場・店舗・公共建物等が特に海岸地帯の市町村において重大な被害を蒙った。

特に住宅災害として県下海岸地帯の全域に及び、不良家屋、独立家屋農家の草葺き屋根また市街地の瓦葺葺鉄板屋根の被害が目立っている。

これらの被害は総額121億6482万5千円に達しており、特記すべきは、被災家屋のうち水害によるものは僅少であつたに反し、強風による被災の割合が大きく、しかもその被害の規模は家屋倒壊などは戦後最大(南海大地震を除く。)となつたことである。また、強風のため電話線、電灯線の被害も甚だしく、特に電話は市内市外の回線を通じ総数の約3分の1が一時不通となり、市町村の被害状況の把握その他の情報連絡にも大きな障害となつた。

県においては、24日12時災害対策本部を設置して所要の職員を動員し応急対策に遺憾なきを期した。

災害対策本部設置と同時に普通寺駐とん地より自衛隊の派遣を受け、同部隊は幹線道路の障害物除去に当り、緊急物資の輸送その他交通の確保に協力した。

また県では被害状況調査の結果、県下55市町村のうち高知市ほか20市町村に対して災害援助法を適用し罹災者の救助に努めるとともに折から開会中であつた9月議会において、災害関係予算の議決をうけ、応急措置及び災害復旧対策に万全を期した。

災害関係の予算は、12月議会において追加された額を加えると7億1千万円余となつた。県内においては、住民とともに県の機構をあげて復旧にあたる一方、政府その他中央の関係当局に対しては当面緊急な対策の早急実施と、復旧対策についての格別の配慮を強く要望した。

激甚災害法の適用についても関係各方面の協力を得て強力に運動を進めた結果、39年11月19日付政令第353号をもつて台風20号が激甚災害として指定され、併せて適用すべき措置がそれぞれ指定されることとなつた。

第2章 気象の概況

1 台風20号の特性

(1) 風台風であつた。

風の強い範囲が比較的広く、県下の气象台、測候所はいずれも、最大風速30米/秒以上を観測した。これに対し、雨は県下の多い所で400耗前後、少ない所は100耗位で、河川の警戒水位を越えたものは、仁淀川水系のエビス岩と越知、渡川水系の窪川、大正であり、中村市で渡川、中筋川、後川の氾濫により浸水地区が出た。

(2) 転向後の加速が著しかつた。

台風が進路を東寄りに転向して後、特に日向灘に出て後は進行速度が速くなつた。宿毛市の北に上陸してから、香川県を出るまで、約200耗を4時間で通過した。

(3) 台風は容易に衰るえなかつた。

大隅半島に上陸した時が、930mbで、九州をはなれる時が950mb、四国へ上陸した時も950mbで、四国を離れる時も970mbを維持し、25日の9時に、金沢付近に達した時すら980mbを保つていた。

2 気象経過

(1) 大隅半島上陸まで

9月17日9時、グアム島の南東200kmに1.008mbの弱い熱帯低気圧が発生し、ゆっくり北上しながら次第に発達して、19日15時には硫黄島の南方約800km(北緯18.1度東経143.3度)の海上に達し、中心気圧も998mbに発達し、台風20号と命名された。

その後、太平洋高気圧の南辺を順調に北西進しながら発達して、21日15時には895mbと非常に強いものとなり、中心の最大風速は60m/s、中心から300km以内は25m/s以上の暴風雨を伴う大型大台となつた。

22日9時には920mbと中心気圧は幾分浅くなつたが、依然として大型台風としての勢力を保持しながら毎時20kmぐらゐの速さで沖の鳥島の北方およそ200kmの海上を北西に進んだ。

23日9時には中心気圧930mb、中心の最大風速45m/sと弱まつたが、25m/s以上の暴風半径は200kmと強い台風の様相を示し、進路を北西から北北西にかえながら時速約20kmで進んだ。

奄美大島の東海上約70kmの海上に達した24日朝から進路は北よりとなり、12時には鹿児島島の南およそ170kmの北緯30度、東経130度に達した。この頃、台風は本部南方洋上に東方から舌状に張り出した強い上層高気圧の周辺を回つて北上していたことがはつきりしたので、九州から四国へのコースが予想されるようになった。

北上を続けていた台風は24日15時屋久島付近を通過したが、この頃から進行方向に東向き成分がでて、高知県にとって最悪のコースも予想されるにいたつた。

24日17時、大隅半島南端に近づき、進路も北東となり速度も毎時30kmとなった。18時には鹿屋市付近に達し、中心気圧940mb、中心の最大風速45m/s、中心から110km以内では25m/s以上、600km以内でも15m/s以上の暴風圏をもつた中型の強い台風で、九州南部から四国地方を指向していた。

(2) 大隅半島上陸から四国地方通過まで

台風20号は大隅半島に上陸後勢力が次第に弱まるにつれ速度は加速し、24日21時には宮崎市付近、25日0時には宇和島市西南40kmぐらゐの海上に達し、中心気圧は更に浅くなつて、950mb、中心の最大風速35m/s、中心から75km以内が25m/s以上の暴風圏と規模も小さくなり、北東に進んだ。

台風はその後も加速しながら北東に進み、25日3時には伊予三島付近に達し中心気圧は、960mbとなつた。

25日4時には、玉野市付近、7時には舞鶴沖にて中心気圧975mbの小型台風となり時速約60kmで北東に進んだ。

(3) 風雨状況

台風が沖の島島付近を北西進していた22日、本県の沿岸海上はウネリが次第に大きくなり、この日から室戸汽船は欠航した。翌23日には関西、あしずり汽船とも欠航して台風20号による影響は海の足にまづあらわれた。

23日の朝方からは南岸沿いにあつた前線が台風で刺戟されて動きが活発となり、東西の岬方面では俄雨が多くなつた。

台風が奄美大島に近づいた24日未明からは、県下全般に雨となつたが、なかでも東西の岬方面では強い俄雨が降るようになり、清水では24日10時頃1時間雨量37mmの豪強雨を観測した。その後県下のところどころで時々強い俄雨が降りだしたが、台風が九州に近づくとつて強い雨が断続的となつた。

この断続的な雨も、台風が大隅半島に接近した夕刻頃からは県下の大部分の地域で10m/s以上の強風を伴つた風雨と変わり、台風接近の兆が濃くなつてきた。

大隅半島に上陸後北東進した台風は、24日21時日向灘に出たが、この頃から県西部では一段と風雨が強まり、22時頃からは宿毛、23時頃からは足摺で20m/sをこす暴風雨が吹き荒れはじめた。この頃高知市でも10m/sをこえる暴風雨となり、台風が四国に近づくとつてますます狂暴となり、宇和島市付近に再上陸した25日0時過ぎからは、風速30m/sをこえる暴風雨が県下の大部分を占める地域で猛威をたくましくし、台風が瀬戸内海に抜けた25日3時過ぎまで続いた。

その後、台風が北東進するにつれて風雨は次第におさまり、25日8時には風雨ともに峠をこえた。

台風経路図

